

平成 2 9 年度主要研究課題

研究機関名：富山県環境科学センター

研究課題名	研究目的	研究の概要	研究期間	所 属
地球温暖化に関する調査研究 (Ⅳ)	地球温暖化による富山県の自然、生活環境等への影響の予測を行う。	過去から現在までの観測資料から温暖化による影響について、過去に実施した降積雪量等の項目も含めて調査する。立山における融雪時期の調査を継続する。本県に影響を及ぼす極端気象現象の発生頻度の変化を推定するため、先進的な研究の情報を収集し、研究協力関係の構築を検討する。	平成27年4月 ～ 平成30年3月	大気課
アジア大陸起源物質の大気環境への影響に関する研究 (Ⅱ)	大気中におけるPM2.5等の動態及び量の把握並びにその起源の解明を行う。	アジア大陸から越境輸送される微小粒子状物質 (PM2.5) や黄砂などの大気汚染物質の質量濃度及び成分濃度の観測結果から、PM2.5高濃度要因及び発生源の検討を行う。また、フィルターパック法を用いてPM2.5イオン成分の通年観測を行い、PM2.5イオン成分の季節変化等について解析する。	平成27年4月 ～ 平成30年3月	大気課
富山湾沿岸海域における栄養塩類の動態特性に関する研究	河川からの栄養塩類、有機物等の流入が富山湾沿岸海域の水質に与える影響について明らかにする。	小矢部川及び神通川河口海域をはじめとする富山湾沿岸海域において栄養塩類、有機物及び植物プランクトン (クロロフィルa) の調査を水深50m程度まで水深別 (5層程度) に行い、栄養塩類、有機物及び植物プランクトンの立体的な濃度分布やその季節変動を明らかにする。 また、栄養塩類及び有機物の分布とクロロフィルaの分布の関係から栄養塩類等と植物プランクトンの増殖の関連について検討する。	平成28年4月 ～ 平成31年3月	水質課
中小河川の自然的要因による水質汚濁特性に関する研究	中小河川の生物化学的酸素要求量に対する自然的要因の影響を研究する。	人為的汚染の小さい中小河川においても、生物化学的酸素要求量(BOD)の漸増傾向がみられることから、様々な条件 (晴天時、降雨時等) における上流から下流までのBODや溶存酸素量等の水質の変動を把握する。さらに、自然的要因に着目し、藻類の繁茂状況、クロロフィルa、栄養塩類を測定し、これらの結果とBODとの関係から漸増傾向の要因を検討する。	平成29年4月 ～ 平成32年3月	水質課
循環型社会構築 (災害廃棄物) に関する研究	本県の建物の実態に応じた災害廃棄物発生量等の推計を行うとともに、災害時に活用するための廃棄物発生量の推計手法を検討する。	住宅の延床面積が広く、一戸建ての戸数が多い等の地域特性に応じた災害廃棄物の発生原単位及び種類別の割合を検討し、本県の建物実態に即した発生量等の推計を行うとともに、発災後の災害廃棄物処理実行計画を早期に策定するために、災害情報及び被害情報を取り入れた地理情報システムを活用した発生量の迅速な推計手法を検討する。	平成28年4月 ～ 平成31年3月	生活環境課